第3回　比喩

練習10　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

雨が降れば傘をさす。傘がなければ風呂敷でもかぶる。それもなければぬれるしか仕方がない。

雨の日に傘がないのは、天気のときに油断して、その用意をしなかったからだ。雨にぬれて、はじめて傘の必要を知る。そして次の雨にはぬれないように考える。雨があがれば、何をおいても傘の用意をしようと決意する。これもやはり、人生の一つの教えである。

わかりきったことながら、世の中にはそして人生には、晴れの日もあれば雨の日もある。好調の時もあれば、不調の時もある。にもかかわらず、晴れの日が少しつづくと、つい雨の日を忘れがちになる。好調の波がつづくと、ついゆきすぎる。油断する。これも、人間の一つの姿であろうか。

（松下幸之助『道をひらく』PHP研究所）

問い　この文章の内容として最も適切なものはどれか。

1　雨の日に傘を持っていないのは、つい油断してしまうからである。

2　人生がうまく行っている時は、悪い時に備える心を忘れがちだ。

3　人は、雨があがると、いつもつい傘をどこかに忘れて来てしまう。

4　人生が好調な時は晴れの日が続くので、傘を準備しておく必要はない。

練習11　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

足が速い人は、生まれつき速い。遅い人は、生まれながらにして遅い。特に短距離走はポテンシャルの勝負――。

そう思っている方が多いでしょうし、私もつい数年前まではそう思っていました。そして、ある面ではやはりその通りなのです。生まれ持った骨格や腱、筋肉などの質によって、足の速さはかなりの部分まで決まってしまいます。

車と同じで、エンジンの性能を超えた走りはできません。

ただし、多くの人は、性能を限界まで引き出していないのです。また、エンジンの性能がアップしなくても、タイヤを履き替えたり、運転テクニックを上達させたりと、スピードをアップさせる方法はほかにいくらでもあるのです。

（為末大『日本人の足を速くする』新潮社）

LIVEWORKSHEETS

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

1　車の速さは、エンジンの性能によって決まる。

2　足が速いか遅いかは、生まれながらにして決まっている。

3　車のスピードをアップさせる方法は、いろいろある。

4　足が遅いと思っている人も、工夫すればもっと速くなれる。

練習12　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

なんかの本で読んだ話。ある山の麓(注1)で、おじいさんと孫が、山鳩(注2)の雛(注3)を育てていた。その山の反対側に、別のおじいさんと孫がいて、こっちは鷹(注4)の雛を育てていた。それぞれの雛が成長して、飛べるようになったんで、ある日、空に放してやった。そしたら、鷹が山鳩を食べてしまった。山のこっち側では、山鳩が喰われたって泣いた。向こう側では、鷹がはじめて餌を獲ったって喜んだ。ひとつの現象なのに、山のこっちと向こうでは、まるっきり正反対のことが起きたってことになる。

妙な話だけど、人生の喜びや悲しみは、根本的にそういうものだ。この世で起きることには、本来、何の色も着いていない。

そこに、喜びだの悲しみだのの色を着けるのは人間だ。

（北野武『全思考』幻冬舎）

(注1)麓：山の下の部分

(注2)山鳩：山に住む鳥

(注3)雛：鳥の子供

(注4)鷹：肉食の鳥で、山鳩より大きい

問い この文章の内容として最も適切なものはどれか。

1　住んでいるところが変われば、同じ現象でも違って見えるものだ。

2　人生にうれしいことも悲しいこともあるのは、しかたがないことだ。

3　いくら人が喜んだり悲しんだりしても、起きたことはどうすることもできない。

4　世の中で起きる物事は、立場によって見え方や意味が変わってくる。

LIVEWORKSHEETS